

基本目標 3 地域で子どもや子育てを支援するまち

基本施策 3-1 地域社会で子どもを育てる環境づくりの推進

子育ては、本来父母その他の保護者が第一義的責任を持つことは、いうまでもありません。

しかし、近年の都市化・核家族化といった社会環境の変化により、子育て環境が大きく様変わりし、地域との関係が薄れ、また地域との関係をうまく作れないために孤立し、子育てへの不安や自信喪失が高じてしまいがちな親が増え、家庭の養育機能が低下してきたため、子どもや子育てへの、地域ぐるみの支援が必要になってきました。

次代を担う子どもたちの育成は社会全体の責任であることの広報・啓発を推進し、地域社会での相互援助のネットワークを構築するための事業を充実します。

〈主な事業〉

事業名	事業概要	平成 16 年度 (見込)	数値目標(平成 21 年 度)または今後の方向	担当課
子育てサークル補助金	地域で活動する子育てサークルに補助金を交付することで、主として未就園児を持つ保護者が集える場の存続を図り、育児の孤立化を防止することを通して、子育て支援を行います。	未就園児の保護者10名以上で月1回以上活動している子育てサークルに対し、活動費の一部を補助します。	継続して実施します。	児童課
子育てサークル交流会の実施	[再掲 P 1 0]			
家庭教育講演会・講座の開催	[再掲 P 1 7]			
公民館での各種教室・講座	[再掲 P 1 2]			
ファミリー・サポート・センター事業	「残業で保育所に子どもを迎えにいけない。」「美容院、買物、病院通いなどの間、子どもを預かってほしい。」など、育児の援助を受けたい人と援助を行いたい人を会員登録し、会員相互の有償での援助活動の連絡調整を行い支援します。	設置箇所数：1 奈良市ファミリー・サポート・センター（男女共同参画センター「あすなら」内）	設置箇所数：1 会員数と相互援助活動件数の増加を図ります。	児童課

基本施策3-2 地域の子育て支援機能の強化

地域には保育所、幼稚園、学校等の施設があり、そこには子育ての専門家がいます。こうした施設の持つ専門的な機能は、そこを利用している人たちだけのものではなく、地域全体の資源であるにとらえ、子育てをしているすべての人が利用できるよう、その機能の強化を図っていきます。

また、地域に開かれた保育所、幼稚園、学校づくりを推進し、地域ぐるみの交通安全、防犯活動を応援します。

〈主な事業〉

事業名	事業概要	平成 16 年度 (見込)	数値目標(平成 21 年 度)または今後の方向	担当課
交通安全教室の開催	学校園に出向き、警察と協力して横断歩道の渡り方、正しい自転車の乗り方などの交通ルールを映画・ビデオ・人形劇でわかりやすく説明するとともに、信号機を使った実技指導なども併せて行い、子どもたちに交通事故から身を守るすべを身につけてもらうために開催します。	開催回数：90 回 参加者数： 13,000 人	開催回数：130 回 参加者数： 13,800 人	交通政策課
学校評議員の設置推進	〔再掲 P 2 3〕			
地域に開かれた幼稚園 づくりの推進	〔再掲 P 1 1〕			
地域に開かれた魅力あ る学校・教育の推進(学 校の自己評価)	各学校がその教育活動や学校運営の状況について自己評価を行い、成果や課題を明らかにして改善を進めるとともに、それを保護者や地域社会に公開することで、開かれた学校づくりを進めます。	自己評価実施校数 幼稚園 40 園 小学校 43 校 中学校 19 校 高校 1 校	自己評価実施校数 幼稚園 40 園 小学校 48 校 中学校 21 校 高校 1 校	学校教育課
「子ども安全の家」標 旗配布	子どもを犯罪や事故から守るため、地域の家庭などに「子ども安全の家」になってもらい、家の入口などに「安全の家」標旗を掲げ、犯罪や事故があった時に、子どもが助けを求めて駆け込める場所を提供してもらい、地域で子どもを守る機運を広めます。	延設置件数： 2,400 件	延設置件数： 3,000 件	少年指導センター